



紅葉で彩られた秋の郷土資料館



大手門のない開館直前の郷土資料館



建設中の郷土資料館（昭和56年）

第1の価値 歴史の風合い漂う建築物

昭和56年9月1日、片倉町に郷土資料館がオープンしました。

その外観は、明治時代、登別に移住した仙台藩白石（現在の宮城県白石市）片倉家の居城『白石城』をモチーフとしています。

館内に据えられた片倉小十郎景綱の鎧・兜（紺糸絨黒胴・2ツビ写真）をはじめとする展示とも調和し、歴史のにおいを漂わせます。

また、春の桜、夏の緑、秋の紅葉、冬の雪など、登別の四季が彩る郷土資料館のたたずまいは、訪れる方を歴史の散歩へと誘います。

第2の価値 貴重な歴史資料

郷土資料館のオープンにより、これまで市立図書館などで保管されていた明治・大正時代の農機具や片倉家の甲冑、幌別鉦山で使われていた掘削機械などの歴史資料が、目の目を見ることになり、いつでも市民の方が、登別の歴史を学ぶことができるようになりました。

収蔵資料が指定文化財に

平成5年には収蔵資料の『明治二年以降片倉家北海道移住顛末』、平成10年には『黒澤家史料』が市指定

文化財になりました。いずれも明治時代に登別へ移住した武士の生活を知ることができる貴重な資料です。

10月には特別展として、これらの資料の原本を公開します。

※詳細は、9ページで紹介いたします。

アイヌ文化の展示

平成15年、登別出身で『アイヌ神謡集』を著した知里幸恵さんの生誕100年にあたるこの年、アイヌ文化の展示スペースを拡張して、特設展示場を開設しました。

幸恵さんの弟で、アイヌ語学者の知里真志保さんの手帳の公開や、ご家族から寄託を受けた所持品の展示など、内容を充実させ登別のアイヌ文化を世に伝えていきます。

特別展の開催

郷土資料館では、常設展示だけでは味わえない収蔵資料の魅力を伝えるため特別展を開催しています。

平成6年には、初めての特別展『昔の弁当』を開催。弁当箱に本物のおかずを入れ当時の雰囲気をかもし出しました。

そのほかにも、幌別鉦山や登別化石林、縄文土器、カメラなどさまざまなテーマで実施してきました。

昨年度も、新資料展『はじめまして！』も実施するなど郷土資料館の新たな魅力を伝えて続けています。

ひな人形や五月人形、こいのぼりなどの季節展示なども来館者から好評を得ています。



特別展『昔の弁当』



平成10年2月10日指定



平成5年9月2日指定

市指定文化財『黒澤家史料』（左）、『明治二年以降片倉家北海道移住顛末』